



オーストリア

カモミールに含まれる精油がポイント

● VKI「消費者」2020年11月号

<https://www.konsument.at/cs/Satellite?pagename=Konsument/MagazinArtikel/Detail&cid=318922312711>

オーストリアでは、体調が優れないとき、^{かれん}可憐な花を咲かせるカモミールが愛用されている。風邪の引き始めには、乾燥カモミールに熱湯を注ぎ、立ち上がる蒸気を吸い込んだり、お茶として飲むなど用途が広い。そこで、VKI(オーストリア消費者情報協会)は、市販のカモミールティー16商品(ティーバッグ13、量り売り3)を対象に、品質および有害物質のテストを行った。うち、5商品が有機品。

同国で販売されるカモミールティーには、医薬品に分類されるものと、食品に分類されるものがある。両者の違いは、植物の有効成分が凝縮された精油の割合である。医薬品として販売する場合は、さまざまな効能が期待されることから、花1kg当たり4ml以上の精油を含むことが要件となる*。それに対し、食品の場合、この半量で足りるとされる。テストの

結果、医薬品の表示がある4商品は基準を満たしていた一方で、食品として販売される12商品のうち、5商品は基準に達していなかったという。

ハーブティーを飲む際に気になる天然毒素が、ピロリジジナルカロイド類である。同物質は、一部の植物が害虫から身を守るために作り出す物質で、遺伝毒性、発がん性が指摘されている。カモミールを機械収穫する際も、同物質を含む植物が紛れ込む可能性がある。テストの結果、食品として販売される5商品から検出されたが、BfR(ドイツ連邦リスク評価研究所)が推奨する1日耐容摂取量を超える程度ではなかったとのことである。また、全商品から農薬が検出されたが、基準値を超えた商品は見当たらなかった。ただし、有機品を選んだほうが、農薬が少ない傾向にあるという。

* 欧州薬局方の基準



ドイツ

環境に配慮したスクラブ剤が主流に

● エコ・テスト出版「エコ・テスト」2020年9月号

https://www.oekotest.de/kosmetik-wellness/Gesichtspeelings-im-Test-Mikroplastik-ist-noch-immer-ein-Problem_11432_1.html

洗顔だけでは落としきれない古い角質や毛穴の汚れ。このような悩みを解決するために、さまざまなピーリング剤が市販されている。使い方は、洗顔後の肌にジェルをなじませ、やさしくマッサージしてから洗い流すというもの。週1~2回の利用がお勧めだという。最近、男性向け商品も登場している。

そこで、『エコ・テスト』ではピーリングジェル26商品(うち男性向け4商品)を対象に、問題成分が含まれていないかテストした。6商品は自然化粧品だった。その際、同誌が重視したのはスクラブ剤の材質である。ひと昔前のピーリング剤には、微細なプラスチック粒子が多用されており、環境汚染の原因となるマイクロプラスチックを流出させるとして批判を集めていたからである。

テストの結果、自然化粧品6商品を始めとする

14商品が「非常によい」という最高評価を獲得した。これらの商品はいずれもスクラブ剤として、ホホバオイル、アプリコット核(種子)、竹などの植物素材やケイ酸、軽石などの鉱物を使っていたことが特徴である。プラスチック素材も、その他の問題成分も含まれていなかったという。同誌は、化粧品業界による自主規制の^{たまもの}賜物であると評価する。その一方で、残りの商品は、完全なプラスチック不用品とはいえないとして減点された。トウモロコシやサトウキビを原料とするポリ乳酸も分解されにくいいため、減点対象だとする。

なお、ボディ用のピーリング剤は粒子が粗いことから、顔には使わないほうがよいと助言する。また、手持ちのクレンジングローションにコーヒーかすを混ぜると、手作りピーリング剤になると紹介する。



アメリカ

パンデミックでSNS上の詐欺が激増

● FTCホームページ

<https://www.ftc.gov/news-events/blogs/data-spotlight/2020/10/scams-starting-social-media-proliferate-early-2020>
<https://reportfraud.ftc.gov/#/>

FTC(連邦取引委員会)は、消費者被害監視ネットワークに寄せられたデータの集計を公表し、2020年6月までの1年間に、前年比3倍ものSNS上での詐欺被害が報告されたと明らかにした。特に2020年の初めから半年間の被害額だけで1億1700万ドル(約121億円)と、前年1年分の被害額に迫る勢いだ。最も多かったのはオンラインショッピング詐欺、ほかにはロマンス詐欺、助成金詐欺など。

SNS上の投稿や広告を見て注文したが品物が届かないというのがオンラインショッピング詐欺で、特に2020年の第2四半期に激増し全体の4分の1近くを占めた。被害者が目にした偽の投稿や広告は注文があるとすぐに削除され詐欺だと気づきにくいという。ロマンス詐欺でも新型コロナのパンデミック以降は金銭の被害が増加している。また、経

済的困窮者に対し、親族や役所の担当者などになりすまして支援金や寄付金を受け取れるとだます詐欺では、金銭とともに個人情報も盗まれるケースが多いという。ビジネスチャンスを持ちかける詐欺では、マルチ商法やねずみ講に関する被害が2020年第2四半期だけで前期比5倍の増加であったという。

詐欺の犯人は低コストなSNSを利用し知人になりすましたり、アカウントを乗っ取るなどして信頼させるように振る舞う。FTCではこれらのトラブルを避けるために、●商品を購入する前に販売業者を検索するなどして確認 ●友人や役所を名乗る相手には直接電話をして確認 ●会ったこともない人に送金すべきではないなどの助言を行い、万一詐欺を見つけた場合はSNSの運営会社およびFTCの苦情受付センターに通報するよう呼び掛けている。



イギリス

最適なマスクを選ぶ

● Which?ホームページ

<https://www.which.co.uk/reviews/face-masks/article/how-to-buy-the-best-face-mask-or-covering-axi5Y1g35Cat>
<https://www.which.co.uk/reviews/face-masks/article/best-reusable-face-masks-awLeA3A6XoZD>

新型コロナ感染拡大の収束がみえないなか、イギリスでも公共交通機関などでのマスク着用が義務化され、マスクが必需品の1つになった。Which?は、マスク着用で無症状感染者のせきやくしゃみ、会話による飛沫^{ひまつ}拡散を防げるとして、各種マスクの特徴を解説。費用や環境負荷の面で繰り返し使える布マスクが実用的だが、サージカルマスクのような厳格な基準がないとして、初の商品テストを実施した。

対象は薬局やスーパー、オンラインで販売されている多種多様な布マスク15銘柄で、素材は綿やポリエステルなど。3μmの飛沫をマスクの布片に飛ばして検証するろ過効率テストでは、2層のポリエステル地の間に5枚のフィルターを挟んだ場合のろ過効率が99%と最も高く、ポリエステル1層では最低の7%と大きな違いがみられた。着用者の息苦

しさやメガネの曇りなどに影響する通気性のテストは、成人の通常吸気量より少し多い8ℓ/分の通気に要する圧力を計測。また、試験者が80回着脱して耳掛けなどが摩耗しないか確認、さらに5回の温水洗濯によるろ過効率への影響や縮み、損傷なども検証した。その結果についてろ過効率や通気性を7割、使用性や快適性を3割で勘案し、推奨品2銘柄、お値打ち品1銘柄、買うべきではない3銘柄を公表した。選ぶ際は2～3層で、素材は異種混合のほうがろ過効率と通気性のバランスがよい、耳掛けや鼻ワイヤーでフィットするものを、など助言している。

またWhich?は今回、通常は有料会員向けの商品テストのレポートを無料公開し、諸外国の消費者団体とも協働することで多くの人がマスクを着用しグローバルなコロナ対策に寄与したいとしている。